

平成29年8月
16号自立からの風
だより発行
障害者支援施設 自立生活訓練センター
兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727(代) FAX 078-925-9229

ご本人中心の支援を目指した取り組み

総合リハビリテーションセンター

自立生活訓練部長兼自立生活訓練センター所長

志水 満



今年の夏も終わろうとしています。自立生活訓練センターの小さな畑では、利用者の方と職員と一緒に育てていた南瓜^{かぼちゃ}を収穫することができました。この間、自主的に水やりをして下さる方もいて、蔓を抜けて黄色い花を咲かせ、小さな可愛い実が日に日に大きくなっていく様子を皆に見守られ可愛がられる存在となっていました。

世の中は、家庭菜園がブームだそうです。自分で育て収穫して食べるという実利だけでは無く、小さな種が芽を出し苗になり、水や肥料を吸収して実となって自分の役割を果たして、種を残す。こうした自然の営みや自然の持つ力を実感できると

こうした丁寧で柔軟性のある支援を行うための仕組みが三ヶ月毎のモニタリングです。平均で約一年かかる訓練期間中のリハビリ進捗状況やご本人の体調変化等に柔軟に対応していくため、ご本人を中心に、ご家族、相談支援事業所の方や当センターの多職種が顔を合わせて、ご本人の希望や支援の方向性、進め方を確認し合う大切な時間となっております。モニタリング会議が日々催されています。当センターの良いところは多様な訓練プログラムがあるという事だけではなく、こうしたネットワークやモニタリングを大切にされたご本人主体の支援が根付いているというところにあると思います。

さて、振り返ってみれば、私たち職員一人ひとりも南瓜^{かぼちゃ}の苗と同じく自分の役割と責任を果たそうと蔓を伸ばし、花を咲かせようとして一生懸命支援に取り組んでいます。利用者の皆さんの目標や訓練の進み具合等を確認し、お一人おひとりの訓練の成果や努力が実を結び、自立が達成されるよう関係者の皆さんとのネットワークの蔓を伸ばし、丁寧な支援に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

ところが、人気の理由なのかもしれません。

さて、自立生活訓練センターは、総合リハビリテーションセンターの社会リハを担う社会復帰施設として、主に中途障害を負われた脊髄損傷や脳血管障害、難病等の身体障害のある方に、自立訓練（機能訓練・生活訓練）を有期限で提供しています。

昨年度は、八十三名の方が訓練を終えて退所されましたが、七十五名の方が家庭復帰を果たされ、その内、就職や進学を実現された方は二十二名でした。利用者の皆さんの多くが、病院等でのリハビリを経た後も、強い意志を持って社会復帰の努力を継続された結果であると思います。また、病院や福祉施設等に移られた方八名に対しても、お一人おひとりの事情やご希望等に配慮して、丁寧に支援させていただいたと考えています。

第11回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会で優勝！！

平成29年5月20日（土）に、第11回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会が県立障害者スポーツ交流館にて開催されました。当センターからは草別尚美さんが個人・一般卓球の部（身体）で参加され、見事優勝となりました！！

■草別さんにインタビュー

Q. 優勝した感想は？

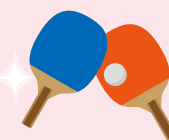
A. 総当たり戦で、最後に集計して結果がわかる形だったので、メダルを渡されて優勝とわかったときは、「えっ、うそ～！！」と思った。

Q. 卓球はいつから始めたのですか？

A. 中学時代の3年間卓球をしていた。入所してからレクスポでするようになって、またやりたいな～と思って。体育指導員さんの紹介で初心者卓球教室に参加し、そのあとクラブに入ってするようになった。

Q. 今後の抱負は？

A. また大会があるので、頑張りたい。

新任・異動・復帰
職員紹介

支援員 井上 歩

一年半の育児休暇を終え、4月から職場復帰しました井上歩です。初心に戻り、利用者の皆さんと社会復帰に向け、共に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護師 藤井 純子

今年1月より医務室で勤務しています。看護師の藤井純子です。利用者の方々の健康管理をサポートできるよう笑顔で頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



支援員 高橋 彩映

1年8ヶ月間の育児休暇を経て4月に復帰しました。「頑張ったぶんは自分にかえってくる！」皆さんが訓練する姿を近くで応援しています、一緒に頑張りましょう！



理学療法士 延本 尚也

リハビリテーション中央病院より異動してまいりました理学療法士の延本尚也です。セラピストの役割も病院とは違い、日々勉強させていただいております。利用者の皆様のお力になれるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします！



支援員 濱田 麻希

4月から当センターに配属になりました。分からないことも多くありますが、皆さんと一緒に成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

編集
後記

今回はプログラム内容を一部紹介させていただきました。楽しいプログラムもあれば、ハードなものもありますが、毎日の訓練の積み重ねによってそれぞれの目標を達成していかれている様子が少しでも伝わればと思います。今後もセンターでの取り組みをお伝えできればと思います。

津田 明子

プログラム紹介

セラピスト集団訓練

月に2回実施しています。内容は教習コースでの耐久走（車いす、立位）やストレッチ、調理、創作活動などがあり、障害の種類・程度を考慮して対象者を決定しています。集団で行うことで互いに良い刺激になることや、共同作業のなかで協調性・計画性を磨く機会にもなります。

利用者さんの声

もう一度自分の足で旅行に行きたい。車にも乗りたい。もっか所内教習コースでリハビリ中！！（谷口氏）



レクリエーションスポーツ

ボッチャ、卓球、フライングディスク、バドミントンなど、それぞれ利用者がやりたい！と思う種目を選んで、自由に出来るプログラムです。利用者の方ほぼ全員が対象のプログラムとなっており、皆さんの活気があふれる時間になっています。



坂道訓練

坂道訓練は施設外にある実際の道路を利用して行っています。緩やかな坂、急な坂が並んでおり、利用者のレベルに合わせて歩行したり、車いす走行の練習等を行っています。



調理訓練

月に2回実施しています。作るレシピや必要な食材・用具を確認し、利用者さん自身で買い物をしてきていただきます。調理の一連の流れを経験することで、自身で出来ることや課題を明確にし、普段の練習に反映しています。



1 概要

総合リハビリテーションセンターにおける社会リハビリテーション部門を担う中核施設として、社会復帰（在宅・就職・進学等）を目指す障害者に多様で質の高い訓練プログラムを提供する。

平成二十九年度は、引き続き経営の安定化を図りながら、事業継続に必要な設備等の改修や更新を実施して、安全・安心な施設運営に努める。

2 平成二十九年度の主要となる方針（考え方）は次のとおり

（1）利用者本位のサービスの提供

総合リハビリテーションセンターの社会リハビリ部門を担う施設であり、県下唯一の自立訓練を主とした社会復帰施設としての特長を活かし、さらに多くの利用者の社会復帰が実現できるよう、訓練プログラムの充実・強化を推進する。

（2）地域で支えあう仕組みづくり

当施設の特長である自動車運転コースを活用した地元小学校の児童を対象にした交通安全教室や総合リハビリテーションセンター施設看護師チームによるまちの保健室活動を通じて、地域貢献を継続する。

（3）福祉と医療の連携による事業推進

総合リハビリテーションセンター内の関係部署（リハビリ中央病院、高次脳機能障害窓口、職業能力開発施設等）及び外部関係機関（回復期リハビリテーション病棟、地域生活支援センター、各地域相談支援事業所）等と連携し、医学リハビリハ、地域支援へと、継続的な支援を実践する。

平成二十九年度

自立生活訓練センター事業計画骨子（要約）

平成二十九年四月一日

平成28年度自立生活訓練センター決算報告（資金収支）

（単位：円）

勘定科目		決 算
事業活動	障害福祉サービス等事業収入	333,594,668
	受託事業等収入	795,820
	経常経費補助金収入	112,154
	経常経費寄附金収入	50,000
	自動車訓練収入	3,074,000
	過年度収入	1,178,059
	その他収入	102,757
	事業活動収入合計①	338,907,458
	人件費支出	194,274,065
	事業費支出	74,163,080
	事務費支出	50,060,539
	その他支出	523
施設整備等	事業活動支出合計②	318,498,207
	事業活動資金収支差額③＝①－②	20,409,251
	収入	施設整備等補助金収入 372,000 施設整備等収入計④ 372,000
その他の活動	支出	施設整備等支出計⑤ 0
	施設整備等資金収支差額⑥＝④－⑤	372,000
	収入	積立資産取崩収入 30,342,000 拠点区分間繰入金収入 15,090,000 その他活動収入計⑦ 45,432,000
その他の活動	支出	積立資産支出 26,656,000 拠点区分間繰入金支出 38,212,000 その他活動支出計⑧ 64,868,000
	その他の活動資金収支差額⑨＝⑦－⑧	△ 19,436,000
予備費支出⑩		0
当期資金収支差額合計⑪＝③＋⑥＋⑨		1,345,251
前期末支払資金残高⑫		1,551,438
当期末支払資金残高⑪＋⑫		2,896,689

（4）人材育成と働きがいのある職場づくり

事業団が主催する研修及び外部研修への参加を計画的に実施する。職場内研修では、職員及び精神科医を講師とした研修及び関係機関等との会議や研修会等に積極的に参加して、人材を育成する。

（5）経営基盤の安定・強化

障害福祉サービスより介護保険のサービスの適用が優先される傾向の中、リハビリ中央病院を始め、各種医療機関等との連携を拡充して、社会リハビリテーション機能の有効性を広報して、利用者確保による収支改善に努める。